

記憶に残る瞬間を、 花で演出する。

花は、感情を投影する装置。

高校生の頃にアメリカで参加した演劇公演で、観客のスタンディングオベーションに胸を打たれ、大学では舞台芸術を学びました。卒業後は舞台を中心に俳優として活動しましたが、家庭の事情で富山へUターンし、生花店に就職しました。

花屋を選んだ理由は、正直なところ「なんとなく」でした。しかし働き始めて間もない頃、妻から贈られた花束に感動して泣いたことがあります。そのとき、花は「記憶や感情を投影できる装置」だと気づき、心のスイッチを切り替えたのです。

約15年間経験を積む中で、「もっと、お客様に寄り添い、本当に求めているものを届けたい」という想いが強くなり、2018年に独立してオーダーメイドの花屋「MINAMO」をオープンしました。



藤木卓さん

富山ガラス工房ショップの装飾の前で

喜びの瞬間を、演出する。

一般的な花屋とは異なり、MINAMOの店頭には花を置いていません。お客様との対話から贈られる方をイメージして理解を深め、その人のための花を創ります。花束のときもあれば、プロポーズの演出、一輪のみというときもあります。贈られる方にチューニングを合わせ、喜びや感動が、その人の記憶として刻まれる瞬間をお手伝いしています。

そのために最も時間をかけるのが花



富山ガラス工房ギャラリーにて、ガラス作品と花の販売イベントを行う藤木さん

選びです。市場に流通する花材だけでなく、庭先の草花や山野草、花農家へ直接足を運ぶこともあります。オーダーメイドなので考えるほどに迷ってしまいます。だからこそ、お客様に手渡す瞬間が一番緊張します。演劇をしていた頃に舞台袖で感じた独特の緊張感と似ており、この気持ちはずっと忘れずにいたいですね。

また、最近は店舗装飾や空間演出を手がけることも少なくありません。花だけでなく、光や音まで総合的に演出することもあり、舞台芸術の経験が活かしています。空間の見せ方や場の空気感を創り上げていくところに、贈答花とは違うおもしろさを感じています。呉羽にある富山ガラス工房のショップギャラリーでも、装飾のお手伝いをしています。富山にはアートが身近にあり、そうした場所での活動も、富山の方が花の魅力に触れるきっかけづくりになっていると思います。

日常を特別にする花を。

花と向き合うとき、常に「今その人にとって何がベストなのか」を考えています。

最近では、贈る相手の生活環境や状況を考慮し、花器に一輪の花を添える「幸運を呼び込むお守り」のようなギフトを提案することもあります。その人の日常に寄り添い、少し前向きになれるような特別感は、豪華な花束でなくても伝えられると思っています。

富山は庭のあるご家庭も多く、花に親しみを持っている街だと感じます。庭仕事をしていて声をかけられたり、花をきっかけに会話が生まれる場面も珍しくありません。花は、飾るために部屋を整えたり、水を替えたりする時間も含めて楽しめるもの。そんな暮らしの中にある豊かさを、花を通して感じてもらえたら嬉しいです。

藤木卓(ふじき たかし)さん 富山市出身。MINAMOオーナー。オーダーメイドで花束の創作や店舗の装飾などを行う。

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング(驚くほど素敵)」な富山について掲載しています。過去の記事はこちら▶



WEBサイト